

イエスは洗礼者ヨハネから洗礼を受ける

これからの話は、アルバート・ノーラン神父の本「キリスト教以前のイエス」を元にして話します。イエスは何をしたか、またそれをなぜしたか、イエスの目標、目的は何か解る。まずイエスの大きな決断をみることができる。一つは洗礼者ヨハネから洗礼を受ける事を決断した事で。

この決断を理解する為に、まずその時のイスラエルの状況を知る必要がある。その状況を知るために聖書学者バジル・ムーアが書いた冊子「福音書の政治的背景」を読むとよい。（欲しい方に無料の印刷物を送ります。）これはその時の政治的状況を判りやすく説明している。またこの前の話「預言者」という話にあったように、その当時イエスが生まれて来るまでの数百年の間に、イスラエルでは貧富の差ができた。金持ちは貧しい人々を抑圧し搾取していた。また、紀元前63年にポンペイウス将軍陸軍大将がイスラエルを侵略して、イスラエルをローマの植民地とした。

ローマはイスラエルの支配者を通してイスラエルを支配した。またローマの人々の豊かな生活を支えるために、ローマはその植民地から税をローマに送った。そのためにイスラエルの貧しい人々の生活は、もっと貧しくもっと苦しくなった。多くの人々はローマのことが嫌いだった。

ローマに対してよく反乱が起こった。ローマの兵士がその反乱をつぶして、反乱した人を処刑したり奴隷として売ったりした。よく福音書に出て来るが、ローマのために税を集めたイスラエル人は嫌われた。税を集めただけでなくローマのために集めたのだ。例えばルカによる福音書の3章12節に出てくる。徴税人が洗礼を受けるために来て「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。というのはある徴税人は規定以上を取り立てたのだ。つまり自分の国民からだまし取ったのだ。そのためにも嫌われた。

ある学者が言うには、収穫の 1/3 ぐらいが取られた。他の学者によると 2/3 が税として取られた。昔日本でも収穫の 7 割が税として取られた時代や地域もあったようだ。

多くの貧しい人々にはこの税を納めることは大変難しいことだった。時には借金して納める必要があった。現代の日本と同じように借金はどんどん大きく重くなって来る、借金も返済できなくなったら土地や家を売らなければならなくなり、人々はホームレスになる事がある。その場合は小作人になったり、或は最悪の場合は奴隷、つまり自分を売った。このため貧しい人々はいつも借金の事を心配していた。ある時イスラエルで反乱を起こして借金の記録が入っていた建物に火を付けて破壊してしまった。昔の日本にもこういう事があったようだ。

主の祈りにこういう言葉がある。「私達の罪をお許し下さい。」実はマタイによる福音書の主の祈りにあるのは罪でなくて借金だ。「私達の借金をお許し下さい。返済して下さい。」と言う意味だ。

またマタイによる福音書の 5 章の 5 節にこういう言葉がある：「柔和な人々は、幸いである、／その人たちは地を受け継ぐ。」その背景は、一般の人々は地主の事を嫌ったという事だそうだ。

地主は柔和な人々ではなかった。厳しく取り立てる人だったので、貧しい人々が借金して返済出来なくなった時、地主はなるべく早く借金の返済の代わりに土地を自分の物にしてしまったのだ。

もう一つの負担は強制的労役、或は賦役だった。

クロッサンによると、イエスは大工で、身分は小作人や農夫より低かったそうだ。つまりイエスとその家族も貧しい人々だったのだ。イエスは貧しい人々の苦しみ、心配、悩みなどを良く分かっていたのだ。

ノーランやクロッサンの本に詳しく書いてあるが、イエスの時代にはサドカイ派という人々は支配階級だった。例えば彼等はマタイの 3 章の 7 節に出て来る：

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大量、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。数は 200 くらいで、彼等から大祭司が選ばれ、エルサレムの神殿を支配した。金持ちも満足して、それで現状維持という考えだったのでローマに反対しなかった。それからファリサイ派もあった。こちらもマタイの 3 章 7 節に出て来る。ファリサイ派は国家主義だったので反乱に参加した。ユダヤ教の法律と教義を大切に、どちらかという法律の型を大切に。それから会堂を持っていた。マルコの 3 章の 1 節にある：イエスはまた会堂にお入りになった。ファリサイ派の人々は神様を王にしたいと思っていた。それでローマに反対したのだ。

もう一つの団体はエッセネ派。これは不満を持っていた祭祀で、神殿の祭祀達から離れていた。辺鄙な所で共同生活をおくっていたり、清い生活をおくろうとしていた。それで神様はメシア、救世主を遣わして下さると信じて、その救世主を待っていた。

さっき言ったように多くの人々は非常に貧しい生活を送っていた。この時に洗礼者ヨハネが現れた。ヨハネはイスラエルの破壊を予言したのだ。例えばマタイの 3 章の 7 節～、また、ルカの 3 章の 10 節から 14 節にヨハネは改心と社会的な道徳を呼びかけた：

そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。

と言うのはヨハネの考え・運動は、サドカイ派、ファリサイ派とエッセネ派とはちがったのだ。

ヨハネのメッセージは旧約聖書の時代、イエスの前の時代の預言者と同じようなメッセージだった。マタイの 21 の 26 によると多くの人々はヨハネを預言者と思っていた。（『人からのものだ』と言え、群衆が怖い。皆がヨハネを預言者と思っているから。）多くの人々はヨハネのメッセージを聞いて、彼の状況の理解は正しいと思っていた。彼の始めた運動は大きな運動となった。マタイの 3 章の 5 節に書いてあるように：エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。またヨハネは勇気を持ってヘロデ王をはっきりと非難してしまった。そのためヘロデに逮捕され死刑にされてしまった。ヨハネは洗礼を受けた。それは改心の印だったのです。清められる、洗われる、新しい出発の印だったのだ。

ユダヤ教の祭祀によれば、洗礼は祭祀しか出来ない事で、神殿で、また有料だった。と言うのはヨハネは祭祀と神殿を無視してしまっただけで洗礼を受けていた。しかもただだったのだ。無料だった。これは祭祀達が喜ぶような行為ではなかったのだ。

ヨハネはなぜ改心と社会的道徳を呼びかけたかと言うと、祭祀達は人々の人権を大切にしていなかったからだ。そのために貧困の差はもっと激しくなり、そのためにイスラエルが破壊されるとヨハネは思っていた。イエスはこのヨハネから洗礼を受ける事に決めた。イエスはヨハネの考え方を納得して信じていたと言う事で、これはイエスの大きな決断だった。

イエスはヨハネから洗礼を受けて神様は喜んでイエスをご自分の子供として認めた：

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイの 3 章の 16—17 節

この時にイエスは神様の子供になったと言う解釈もある。イエスの立場から考えると、イエスは心の中で聖霊の導きを感じてそれを実行、実現しようと決断した。

私達も同じようにすれば良く、自分の心の中で神様の導きを感じる時にそれに従って生きるのだ。

次の話はイエスはこれを決断してから何をする事に決めたか。

エクササイズ

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイの3章の16—17節

神の霊がなぜこの時にイエスの上に降って来たと思うか。

次回のセッションの準備として

「キリスト教以前のイエス」第三章 貧しい人々と抑圧された人々